



札幌市の  
図書館  
2020



# 札幌市中央図書館は「開館70周年」を迎えました



1950年(昭和25年)5月11日、時計台に「市立札幌図書館」が開設されてから今年で70周年を迎えました。今では、中央図書館をはじめ、地域に密着した地区図書館や図書室など47の図書施設が整備され、そのうち43か所がオンラインで繋がり、市内のどこでも貸出、返却、予約ができるネットワークが構築されています。



「超満員の札幌市立図書館」  
(昭和32年2月18日北海道新聞)



旧札幌市中央図書館(昭和42年～平成2年)

また、近年はインターネット時代に即した電子書籍の導入や、乳幼児期からの読書のきっかけづくりを目的とした「えほん図書館」、仕事や暮らしに役立つ情報提供に特化した「図書・情報館」など、新しい形の図書館の充実にも努めており、こうした取り組みが評価され、2019年(令和元年)11月には、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2019」の大賞及びオーディエンス賞を受賞いたしました。

## 札幌市の図書館がライブラリーオブザイヤー2019「大賞」及び「オーディエンス賞」をダブル受賞

2019年(令和元年)11月13日(水)横浜市で開催された「第21回図書館総合展」において、「ライブラリーオブザイヤー2019」の最終選考会が行われました。9月の選考会で優秀賞に選ばれた4団体が、プレゼンテーションを行い、複数の審査員による投票で「大賞」が、また会場参加者による投票で「オーディエンス賞」がそれぞれ選ばれ、いずれも札幌市の図書館政策と札幌市図書・情報館が受賞いたしました。



### 優秀賞受賞理由

札幌市では近年、電子図書館、大通カウンターでの図書の貸出・返却、えほん図書館の開設と政令指定都市の中でもトップクラスの図書館サービスを提供している。

中でも、昨年開館した札幌市図書・情報館は、わずか1500m<sup>2</sup>という面積に新たな利用者層も取り込み、開館1年足らずで100万人の来館者を獲得した。「はたらくをらくにする」という明確なコンセプトを生かすため、本の貸出を行わず、レファレンス・サービスを重点的にを行い、日本十進分類法を配

架に使わないなど、すべてが職員の工夫によって行われている。このことは計画的に職員を育成したことによって成り立ったと思われる。

本来の図書館ネットワークが完成しているまちにおいて、何らかの図書館機能を特化させるというサービスの進化形を具現化したものであり、札幌市の優れた図書館構想が、この図書・情報館や市民への図書館サービスを誕生させたことを評価した。

(令和元年10月2日主催者発表全文)

### Library of the Year (ライブラリーオブザイヤー)

これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して、NPO法人知的資源イニシアティブ(IRI)が授与している賞です。

2019年(令和元年)は、札幌市のほか、恩納村文化情報センター(沖縄県)、県立長野図書館(長野県)、京都府立久美浜高等学校図書館(京都府)の4団体が優秀賞に選出されました。

### 札幌市図書・情報館

「はたらくをらくにする」をコンセプトに、WORK(仕事)・LIFE(暮らし)・ART(芸術)・札幌の魅力発信の4分野に特化した課題解決型図書館で、2018年(平成30年)10月7日に札幌市民交流プラザ(創世スクエア)に開館しました。

